

学習支援ソフトで子ども同士が学習状況を共有し、 対話的な学びで学習を深める利用

第5学年

整数の性質

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 倍数や約数に関する問題を Scratch で作成することで、整数の性質を再確認することができました。
- 学習支援ソフトで、子ども自身が進捗状況を報告・確認し合うことで、対話的に学ぶことができました。

公倍数・公約数の考え方やプログラミング的思考を活用して、Scratch で問題作りをする



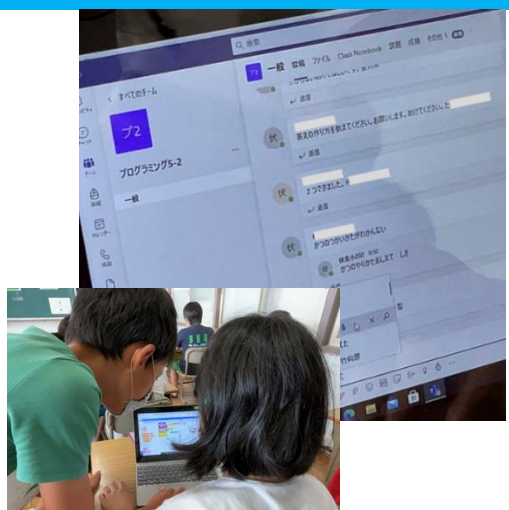
黒板上でプレートを使って、使用するブロックと整数の性質の関係性について共通理解した上で、タブレットを操作することで、プログラミング的思考に焦点をあてて取り組めるようにする。

- ・ Scratch のブロック操作で戸惑うことがないように、各ブロックがもつ役割を確認するとともに、簡単にその使い方について指導する。
- ・ 作成した問題を仲間へ解いてもらうことで、難易度を調整したり、プログラミングを見直したりする。

教師の指導のポイント

- いきなりタブレットの操作に入るのではなく、Scratch のプログラミングに必要なブロックの操作や役割について全体で確認することで、操作に関するつまづきを極力軽減し、授業で学習したことをもとにしたプログラミングに時間いっぱい取り組めるようにする。

学習支援ソフトで進捗状況を互いに共有した上で、自由に交流する場を設定し、対話的な学びを生み出す



学習支援ソフトで子ども同士が、進捗状況を報告し合い、必然性のある交流(対話的な学び)を生み出す。

- ・ 学習支援ソフトで、「ここまでできた」「ここで困っている」「教えてほしい」等、一人一人が自分の進捗状況をリアルタイムで報告し合うことで、自然な形で、仲間へ寄り添ったり、タブレットを持って移動したりするなど、対話的な学びにつなげる。
- ・ 発言することに苦手さを感じている児童でも、自分の困り感を表出できるように学習支援ソフトでのやりとりを位置付ける。
- ・ 終末で、授業の満足度を視覚的に共有することで、自分自身や学級のプログラミングする力の成長を実感できるようにする。また、その理由を発言することで、対話的な学びの良さを再確認する。

教師の指導のポイント

- 一部の児童の考えだけで授業を進めるのではなく、協働学習支援ツールで全員の考え方を学級全体で共有し、それらの考え方の共通点や相違点に着目したり、自分の考えと仲間の考えを比較したりする場面を意図的に位置付けることで、学びを深められるようにする。
- 自分の考えを整理するにあたり、参考となった仲間の考え方を各自のスライドに残しておくことで、「協働的な学び」で、「誰のどんな考え方」によって自分の考えが深まったのかをメタ認知できるようにする。